

しみずの教育

ちょっといい話

【平成28年8月号】

清水小学校

校長 山下 勇

子どもたちの成長を実感した1学期

朝の学習や読書、毎時間の授業に取り組む学びの姿勢、交わされる挨拶、教室や下駄箱の環境、掃除する姿など、一つ一つの行動や姿、状況から一学期間（73日間）の子どもたちの成長を見取ることができました。特に、子どもと教師がしっかりと向き合いながら進められている授業や、子どもと教師が一体となって取り組んでいた学校行事や学級活動、休み時間に汗をかきながら遊んでいる子どもと教師の様子など、子どもの姿や教師の姿に輝きがあり、成長がありました。その要因は教師一人一人の姿勢や指導力・授業力はもちろんですが、一つのことに集中し、真剣に取り組む子どもたちの頑張り、それを支え、応援している保護者の力です。



〔6年算数〕問題に集中して取り組む子どもたち。

二学期も、子ども、教師、保護者がそれぞれのやるべきことをやり、ともにつながり合い、さらに成長することをめざしていきたいと思います。

Good-bye Ashley先生!

全校児童に外国語活動の授業を行っていただいた、「アシュリー先生」が任期を終え、母国アメリカへ帰国しました。各学級で行われたアシュリー先生との最後の授業では、これまでの学習の中で身に付けた英語力を活用した楽しい授業となりました。また、学級毎に、アシュリー先生への感謝の気持ちを込めた歌や手紙、手作りのものなどのプレゼントがありました。



いつも活動的で楽しい授業を展開していました。

工夫した授業を通して、子ども一人一人に英単語の発音や英会話など英語の楽しさを実感させ、コミュニケーションする力を培ってくださったアシュリー先生。子どもたちは、アシュリー先生が大好きでした。別れを惜しんでいました。

“ありがとう アシュリー先生”そして、“さようなら アシュリー先生”

輝いた子どもたち～ピアノでの入選、陸上での入賞 おめでとう

「ピティナ・ピアノコンペティション」のソロ部門B級で、3年生の井上夢菜さんが入選し

ました。また、北海道小学生陸上大会で、5年生の三好慶悟君が80m障害3位、走り幅跳び4位に入賞しました。

この結果は、日頃の練習の成果であり、努力の結果だと思えます。今後とも、努力を積み重ね、さらに上をめざして頑張る、自らがめざしている結果が出ることを期待しています。

御影小学校



平成 28 年 6 月 12 日（日） 御影小学校 100 周年記念特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会

「チャレンジ」と「継続」の夏休みを

校長 近藤 弘子

72日間の1学期が終了しました。子どもたちが、元気に登校し、無事に終わることができたのは、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力があったからです。心からお礼申し上げます。

さて、本校グラウンドにおいて行われたラジオ体操の生放送を録音したCDを最近いただき、その放送を聞き、改めて感動しました。元気な子どもたちの「おはようございます」という声、さわやかな加藤由美子さんのピアノに合わせての鈴木大輔先生の清水町を紹介する言葉、途中で入る「イチ・ニー・サン・シー・・・」と元気な声、素晴らしかったです。CDは放送中の10分間ですが、当日の空気や元気が閉じ込められていて、音だけで光景が目には浮かぶ貴重な宝物です。録音をして下さった方に感謝いたします。

この夏休みも各地で巡回ラジオ体操の放送が毎朝6時半にラジオから流れます。御影地区でも子ども会が中心となって多目的広場の公園で行います。少し早起きをし、家族で参加してみたいかがですか。きっとさわやかな一日が始まるはずですよ。

24日間の夏休み。家族で有意義な時間を過ごしていただきたいと思います。夏休みだか

らできる自分で決めた「チャレンジ」を「継続」してほしいと思います。「チャレンジ」といっても、難しい、新しいことに向かっていくというよりは、今続けていること（学習・観察日記・水泳・スポーツ・ラジオ体操・お手伝い・習いもの等）を少し目標を上げて着実に頑張ることです。頭も心も体も十分使って、暑い夏を元気に楽しく過ごしてほしいと思います。

その中で、いつも言っていますが、是非食事にかかわる手伝いも継続的にさせて下さい。何もしないでご飯を食べられるはずはありません。それは1年生でも同じです。学校でもやっています。できれば料理にかかわる手伝い（米を洗う、野菜を洗う、切る、盛りつける等）も多くし、お子さんに合わせた経験をさせてほしいと思います。初めは時間がかかったり失敗したりもしますが、少しずつできるようになります。これも一つの「チャレンジ」と「継続」になります。自分ができる料理などを写真を添えてレシピ帳にすると立派な作品にもなります。

最後に、3つのあ「あいさつ・ありがとう・あとかたづけ」を夏休みもしっかりできるように家族ぐるみで取り組み、熱中症・食中毒・交通事故・水の事故などに遭わないよう約束を守って、十分気を付けて生活し、充実した夏休みにして下さい。

清水中学校

校長 宝 輪 博 継

部活動での中高連携

最近清水高校との部活動交流が盛んです。夏の大会前には清水高校バレー部が何度も練習に来てくださいましたし、夏休み中には野球部や陸上部の生徒が、本校の部活動練習に参加してくれていました。

教職員の交流や連携も大切なことですが、こうした生徒の交流も清水高校の具体的な活動の理解につながります。

進路選択はもちろん、生徒・保護者が十分に考えて将来を見据えた選択をする必要があり、地元の高校への進学を押しつけることはできませんが、地元になんてきな高校があり、頑張っている姿を、しっかりと伝えていくことは、とても大切なことだと考えます。



環境整美

今年の学級花壇はコンテスト形式。「苗の育成状態」や「花の美しさ」「草取り状況」「花壇まわりの美しさ」などの観点で、審査がおこなわれます。夏休み前には中間審査がおこなわれ、夏休み中にも審査があることがアナウンスされています。

そのせいもあってか、夏休み中も学習会や部活動の後などに、花壇整備をしている生徒の姿をよく見かけます。時には雨の日に、傘を差しながら草取りをする姿も。

コンテストの有無にかかわらず、昨年の大規模改修を機に、学校を、身の回りを美しく保とうとする生徒の意識が高まっています。うれしい効果です。



御影中学校

校長 寺島康博

御中ギャラリー「写真展」

今回は、御影レンズクラブの皆様によります写真展を開催しています。「ホオナガスズメバチ」「顔」横溝幹生様、「ちょっと失礼」「おっちゃんありがとう」宮本 剛様、「光陽を求めて」「秋踊る」「石楠花の溪」「冬珊瑚」藤原輝也様、「初秋の沼」「雨上がり」「秋を映して」中村政治様、「海の青、空のあお」河口知規様、「怒号の海」「水辺の秋」池原良徳様、「桜三景」田宮嘉久様の作品が展示されています。昆虫の顔のアップや自然に生きる動植物、美しい景色など、見る者を引きつける作品ばかりです。子どもたちは、廊下に立ち止まって「すごい」「どうやって写したんだろう」「スズメバチがすごい」など歓声をあげて見ていました。



さようなら、アシュリー先生

平成25年8月から清水町の英語指導助手としてご活躍されていた、アシュリー・ハディックスさんが、7月末で3年間の任期を終えて、母国アメリカへ帰国することになりました。アシュリー先生は、御影中学校には毎日来校し、楽しく各学年の英語を教えてくださいま

した。町内の小中学校で英語指導にご尽力されただけではなく、社会人対象の英会話教室でも指導されていました。3年間、大変お世話になりました。アメリカに戻られても、御影中で過ごした日々を思い出していただければと思います。「アシュリー先生いつまでもお元気で！」

アシュリー先生から、御影中学校の生徒・保護者の皆さんへ、お別れの言葉をいただきましたので、ご紹介します。なお、原文は英語でしたが、日本語に訳したものを紹介します。

《アシュリー先生のお別れの言葉》

御影中学校の皆さん、この3年間、清水町に住めたことに本当に感謝しています。私が日本に初めて来たとき、ここで生活していくことがとても不安でした。でも、皆さんが本当に親切にしてくれたこと、そして、生徒の笑顔を毎日見られたことが私にとって幸せでした。今、私は母国へ帰ることになりましたが、清水で過ごした時間や、出会えた人々のことを決して忘れません。いつの日か、また日本に来られる日が来ることを願っています。



清水高等学校

校長 西 嶋 潤 一

「清水ドリームチャレンジ宣言」

～案内板を設置していただきました

7月22日（金）、国道38号線沿いの2箇所に学校案内板が設置されました。

清水高校には生徒の活躍を外部に知らせる適当な看板が無く、せっかく全道大会等で活躍し全国大会に行っても、町の中では一部の人しか知らない。また、学校の場所を考えても、学校の壁面の垂れ幕等では、生徒はともかく見られる人の数は知れている。そんな考え方から、町に要望し、清水高等学校振興会の今年度予算を増額していただきました。

給食センター横に、前からの清水高校案内板に並ぶ形で、また、帯広側からの清水市街入り口に、高さ4メートルの立派な看板が設置されました。「少し字が小さかったかな」とも反省していますが、学校が民間のお店のように目立つ看板というのも・・・ちょうど良かったと考えています。

案内板に載せた「清水ドリームチャレンジ宣言」。これは、「清水高校は通ってくる生徒の幅広い夢を、進路を実現します」という宣言です。生徒の半数を占める就職希望にはもともと強く、十勝管内での就職者も帯広南商業に次いで多いのですが、系列で言うと「人文科学」「自然科学」を中心とする進学希望者にも、更に手厚い教育を行うことを含め宣言しています。

総合学科20周年を機会に、教育内容を高め、習熟度別の授業を工夫し、一般の進学のみ

ならず、看護系、公務員志望等も含め、生徒の夢を実現する、そんな学校を築く強い思いでの案内板設置でした。沢山の夢にチャレンジする中学生が集まってくれることを期待しています。

案内板では、「祝」の文字の下、生徒の活躍を紹介しています。

演劇部の「第四十回全国高等学校総合文化祭」は広島で行われ、8月1日(月)～3日(水)、気温35度前後の猛暑の中で自分たちの脚本による「その時を」を上演しました。会場は広島市中区のJMSアステールプラザ大ホール、全国の12代表の中で熱演しましたが、最優秀、優秀の上位4校に入ることはできませんでした。

閉会式の前には講習会も行われ、全国のレベルを体感し、勉強になったとの思い、その経験をつないで9月には十勝支部の予選が始まります。演劇部に夏休みは無かったですね。

アイスホッケー部は「第十一回全国高等学校選抜大会」に出場しました。8月3日(水)から苫小牧市で行われ、一回戦で埼玉栄高校に6対3で敗れてしまいました。この選抜大会では釧路の武修館高校が初優勝しました。

昨年は準決勝で、優勝した白樺に敗れたのですが、その白樺はインターハイでは道の予選で勝てず、選抜2位の武修館が優勝しました。夏の大会は、これからどう仕上げるのか、課題確認のための大会です。8月末には帯広・韓国アイスホッケー親善交流大会が韓国で行われ、白樺との合同チームに白樺8人、本校から9人が参加します。

こうした経験に加え、今年は1年次生もしっかりとレギュラーに入りそうで、打倒白樺、武修館で夏に鍛え、12月1月のシーズンを目指します。

案内板の半分は全国出場の部活や選手の紹介を予定しています。「祝 全国優勝」そんな文字を描けることも期待しています。

案内板にかける学校の予算が足りなくなるくらい、頑張ってくださいですね。



(案内板写真)



異年齢での園庭あそび…テーマ「海」

異年齢の友達とかかわることで、思いやりや憧れの気持ちをはぐくんだり、さまざまな活動や遊びを通して友達関係を深めたり、生活体験を広げたりすることをねらいとして、今年も異年齢活動を計画的に進めています。

今年のテーマを「海」と設定し、海の生き物を遊具や砂場に配置して挑戦しています。ジャングルジムには、目の大きな魚が子供たちの

上ってくるのを待っています。砂場では、トビウオ。太鼓橋は海藻の林に変身。のぼり棒にはカメが目標の目印として貼られています。子供たちはカメまで登ろうと励まし合いながら、降園後はお母さんに励まされながら楽しみに挑戦しています。夏にしては少々肌寒い日が続きましたが、晴れた日にはどろんこパンツをはいて砂場でのあそび、色みずあそびをしました。いろいろなものへの関心や友達とのかかわりから見違えるように成長していく姿が微笑ましいです。夏休み後に子供たちがさらにいろいろなあそびに興味をもって挑戦できるように準備を進めています。



大根ぬきを体験…春に植えた種が大きくなりました！！

5月の話ですが、26日(木)に幼稚園の畑に、園児みんなで種をまきました。年少児は枝豆、年中児は人参、年長児は大根です。とても小さな種をつまむのにも苦戦していたのですが、さらに強い風にあおられながら何とか種まきを終了しました。少し経つと、予定していた畝とは違うところに、元気に小さな葉っぱが並び大喜びの子供たちでした。水やりをした



り、草取りをしたりして、大きくなるのを楽しみにお世話をしてきました。今年は天候が悪く、なかなか思うような手入れができないでいましたが、すこしずつ成長し、年長さんの大根もようやく大根らしく成長してきました。もう少しおいておくと大きな大根になるのですが、終業式の日に合わせて収穫し、例年より小ぶりの大根を家に持ち帰りました。どんな大根料理が食卓に並んだのかな…。

中・高連携サイエンス・サマースクールの開催 音を光にのせて・・・光通信の仕組みを学ぶ

第9回中・高連携サイエンス・サマースクールが7月23日（土）、清水中学校を会場に開催されました。今年のテーマは「光」。講師は北海道教育大学釧路校講師の中山雅茂先生です。清水中学校、御影中学校、清水高校の生徒が参加しました。

実験では、はじめに、ハンドジェネレーター（手回し発電機）を使ってLED（発光ダイオード）と白熱電球を点灯させ、その違いを比べました。白熱電球に比べLEDは簡単に点き、省エネが実感として体得することができました。

次に光通信機を作成しました。まず、発光ダイオードを使った送信側回路を組み立て、次に、光を受けるフォトトランジスタを使った受信側回路を組み立てました。ラジカセからの音の波形が発光ダイオードの光の強弱に変換され、それがフォトトランジスタに伝わり電流が流れ、再び音に再変換されるというものです。



さらに回路にオーディオ用電解コンデンサーを付けて音の違いも調べました。鮮明な音に変わっていました。生徒たちは休み時間も組み立てに集中し、イヤホンから音が聞こえたときは、とても喜んでいました。

生徒たちからの感想では、「初めて知ることが多くてたくさん学ぶことができました」「なかなか音が聞こえなかったので、聞こえたときはとても感動しました」等々。中には、「私自身不器用なのでこんなに細かい作業をきちんとできるなんて驚きました。もしかすると、才能が開花したのかもしれない」というのもありました。

（教育指導幹 清水彦一）



子育て教育の四季

家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで「12の窓」から
感性あふれ、表情豊かな子を育てる

夏～さわやかな風の中で 元気に力強く

家庭・地域
今月の取組
うちの子 よその子
隔てなく
しっかり受け止め
励まそう